天道様

森田たま

いまから二十年、いや三十年あまりになりませうか、私の生れた町に、しつかり者の髪結さんがをりました、もちろん教育などあるはずもなく、この頃は盛に風邪がはやるから氣をつけなさいとか、バケツをバキツ、西瓜をらつかと言つたりするやうな人でしたが、大切な一人息子が中學を卒業してアメリカへ行きたいと言ひ出した時、彼におもひきりよく「男の子だものやりたいだけのことをやつてみなさい。」

と、つましい暮しの中からためておいた貯金全部をおろしてそれを持たせて、さつさとアメリカへやつてしまつたのです、知りあひの人たちがこの事をきいてびつくりして、さびしいでせうと慰めると「なんの、なんの、私のところはごらんのとほり貧乏で、ろくなこともしてやれないが、それでも我々の身分で中學だけは卒業させたのだから、これで幾分親の役目も果したといふもの、これからあとは、もうあの子の考へ次第で、一本で出世しようとまたは乞食にならうと、青い目の嫁さんをもらはうと、好きなやうにしたらいゝので、私は一生あの子の厄介にならうとは、ちつとも思つてゐませんのさ、なんの子供を育てるのは親の義務さ、それが天道様への御奉公さ、息子は息子でまた自分の子供を育てなければならないのだもの、親までしよひこんでたまりますかね」

さう言ひながら、毎朝神棚に拝手うつて息子の無事をいのりかけ膳をすゑて遠い異郷の空でひもじい思ひをしないやうにと息子の身の上に、心を配るのでした

息子さんは後年出世をして、アメリカからかつてまゐりましたが、世界中で自分の根親ほどありがたい人はないと言つてゐるのを聞きました

その頃は、まだ世間一般に、子供は育てられた恩返しに親を養ふものといふ考へが常識になつてゐた時代ですのに、子供を育てるのは親の義務で、それが天道様への御奉公だと達觀して子供から何の報酬も豫期しなかつた、この髪結さんの心がけはまことに見あげたものだとおもひます

それにつけても人間のえらさといふものは、まつたく教育のあるなしにかゝはらず、ひとへにその人の心のもち方一つにあることを、今更のやうに痛感せずにはゐられません

新竹州下の大埔と八塊地方で「野生稲」發見さる

稲の原種と謂はれる

新竹州下竹南郡大埔地方、桃園郡八塊地方に所々に吾國では最も珍らしい現在栽培せられてゐる稲の原種とも謂ふ様な野生稲の自生地が發見せられてゐるもの以外、自然生の所謂野生稲と稱すべきものは、アフリカ、南米、南洋諸島等に約十二、三種挙げられてゐる様である、吾が臺灣土内には未だ埴地以外に野生的のものは未だ知られなかつたのであるが、原生的存在の稲の一つとして、前記地方の野生稲が新しく挙げられ之は天然記念物的存在の一つであると云ふ北帝大の日比野教授も折紙を附けたものである、此の稲は同地方の古くから殆ど手をつけられぬ様な沼澤池に現存するもので、永年の間株や落ちた種から自然的に生を繼ぎ、沼澤池の水中にて生育し、葉は細長く葉鞘及び葉は紫紅色を呈し、草丈高く株張多く八月末頃は普通の稲と同じ様な長芒を伸する穂が出て開花結實する、結實歩合少く且つ結實しても非常に落粒し易い所から穂は普通の様なものが出るが、穂を見たことがない、本島人は之はきつと夜叉が來て食べるのだらうと云ふ所からこの稲を鬼仔稲と稱したり、又沼澤の水の中に生育する所から水稲（みづいねゝ）などとも稱してゐる、米粒は非常に細長く赤米である、實用的の價値はないであらうが、兎に角珍らしいことである、之が發見されたのは昭和四年九月二十一日、時の新竹州技師であり、且つ植物學に造詣の深かつた島田鋼市氏が竹南郡大埔地方を通行中一小池で偶然に發見し、又同月二十七日に桃園郡八塊附近の一沼澤池で同様の稲が發見されたものである、竹南郡大埔の初めて發見された小池には現在竹南郡で標木が立てられ漫りに採集せぬやう禁札を立てゝゐる

新竹州下で

素晴しい鐵鑛脈發見

新竹市附近に優秀な鐵鑛が發見され、臺灣鑛業で早くも企業化せんとしてゐるが、之より先新竹市南門町三橋利喜氏は新竹州下中壢、桃園、大溪、新竹、竹南、大湖の六郡下二十餘里歩に亙る鐵採掘權を出願してをり四百三十度燒料一分と云ふ素晴らしいもので、五月中には企業化し、六月頃より本格的に事業開始の計畫で、三橋氏の本事業に接し、前記井上博士、及び八幡製鐵所の田所芳秋博士は願出分二〇%、磁鐵三百度、溶融點分二〇%、磁鐵三百度、溶融點四百三十度燒料一分と云ふ素晴らしいもので、五月中には企業化し、六月頃より本格的に事業開始の計畫で、三橋氏の本事業に接し、前記井上博士、及び八幡製鐵所の田所芳秋博士は願出

人絹用原料として大豆殼パルプ製造

滿鐵の手で試驗に成功

人絹製絲用パルプの世界的供給不足から、滿鐵では今回全滿に燃料用としてのみ顧みられなかつた大豆殼に着目、人絹用パルプ原料とすべく研究中で、既に滿鐵中央試驗所、及び東京工業試驗所のテストをパスしたので、愈々その工業化を企圖、滿鐵と三井物産が中心となつて資本金一千二百萬圓の大豆殼パルプ製造合社を設立する事となつた、出資者には東洋レーヨン、東京人絹も參加する豫定で第一期資額は年五六萬噸の計畫である

臺中州下

大茅埔の楓林に天蠶が群棲する

本島では飼育が不可能であるとされてゐたテグス織物、および軍需品の原料、その他に多様な用途をもつ天蠶が最近臺中州東勢郡大茅埔の楓林に群棲してゐるのが發見され、州では資本金五十萬圓程度の天蠶養殖、および製絲を目的とする合社の設立を計畫、養殖に必要な土地は州有地を拂下げるといふ積極的態度で設備を進めてゐる、本島における天蠶飼育は明治四十一年に總督府の農事試驗場が臺中州南投郡に試育したのを最初にその後數回にわたつて飼育が行はれ、州でも補助金まで交付して天蠶絲製造の達成に乘り出したこともあつたが、何れも成功を見るに至らず、中絶となつてゐたものであるが、一方テグスの需要は年々增加し、主として支那方面からこれを輸入し、その額も四百萬圓に達する狀態で、更に最近ではこれが軍需品の原料として重要なる用途をもつに至つたので天蠶養殖、および製絲を目的とする合社が設立せられ、大規模なる生産が行はれることは現に臺中州の産業を振興せしめるといふのみでなく、輸入防遏といふ國策的見地からも頗る要望せられてゐるところで、これが實現には多大なる期待がかけられてゐる

——春の日の行進——

原件不清楚